

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800100		
法人名	医療法人 荒瀬会		
事業所名	グループホーム 乙女		
所在地	熊本県上益城郡甲佐町津志田1661		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境で穏やかにのんびりした日常を送っていただいている。日々の生活の中でおしゃべりしたり、ゲームを楽しんだり、歌を歌ったり、季節の行事に触れながら家庭的な雰囲気でも過ごしていただいている。又、孤立しない様に地域の方とのコミュニケーションも大事にしながらできる限りの地域行事に参加しつつ馴染みの関係を深めていきたい。最近ではコロナウイルスにより行事が奪われている状況である

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中で、入居者と共に生活する家族として喜怒哀楽を楽しむホームでは、最高齢101歳といえども新聞や雑誌を見て過される入居者に自然体で関わり、入居者同士が仲睦まじく会話で楽しむ姿を見守る職員の姿勢に、理念に謳う「心に寄り添う」の実践が表われている。新管理者として、業務や体制を立て直すべく職員とのコミュニケーションを図り、コロナ禍に外に出向くには制限もある中で、ホーム周辺の環境を生かしながら(梅ちぎりや庭先でのコスモス見学、玄関前でのランチ等)外に出る機会を作っている。家族への毎月の報告書による情報発信が気軽に会えない事への不安軽減として生かされている。家族や地域との連携により、これまで築き上げてきた地域住民との交流に再始動されることと大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様が安心して暮らせる生活を提供するために、ご家族様と連携を深めその人らしく過ごせるようにスタッフで話し合いを設け実践につなげている	入居者を認知症として捉えず一人の人として捉えるよう指導し、共に生活する家族として喜怒哀楽を楽しんでいる。研修会の中で得た、理念の捉え方を全員で共有し、運営推進会議の議事録に記載することで啓発の一環としている。理念の中に謳う「心」に寄り添うケアの一つとして話を良く聴きことに注視したケアを全員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響を受け外出の機会が減少しているが、できる限りの繋がりを持てるよう努めている。回覧板の受け取りやりサイクル当番での参加は住民の方との日常会話の中で地域の繋がりが保てている	例年であれば、ボランティアの受入れ、保育園児及び小学生の訪問、小学校の運動会への招待等充実した地域の中での生活であったが、コロナ禍による交流の制限により、職員が老人会に参加することで関わりを継続させている。自治会に加入し回覧板の受渡し時が挨拶をする機会となり、リサイクル当番等地域の一員としての関わりも職員が継続させている。近隣あつてのホームであると認識し、隣には何でも言うてくださるようお願いする等ホーム側からアクションを取る様に心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で地域の方々への活動報告や近況報告を通し理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会開催日を偶数月の木曜日に開催し、事故やヒヤリハットの報告と検討会の報告を行っているがコロナウイルス感染症予防の為に会議は開催せず書面で報告させていただいている	運営推進会議は書面審議として行政や構成メンバーに持ち届け歓談の中で重要な情報を得ている。活動報告や研修、入退居、介護度及び入居者の状態、異動、事故・ヒヤリハットや新型コロナ予防対策等とともに避難手順についての意見交換やケアプランを開示し入居者への取り組みを説明している。民生委員の交代時期で有り、介護保険の仕組みの発信や分かりやすい情報を発信する場とする意向である。	問題提起の場としたいと意欲的であり、対面での開催が出来るようになれば形骸化にならないよう、更に充実した会議となるよう検討いただきたい。また、家族への参加を呼びかけていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場福祉課、地域包括センターの担当者に電話で問い合わせをしたり、窓口に出向き顔を突き合わせて話をしている。生の声を聞くことができ参考にさせて頂いている	役場に出向き、顔を合わせながら不明な点等を相談したり、電話で問い合わせしている。介護更新申請に出かけながらの情報交換や、訪問調査時に譲歩を発信している。地域包括支援センターから勉強会への声掛け等もあり、今後、行政と運営推進会議の開催に向けた話し合うとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を年に3回実施している。勉強会を通して話し合い共有することで改善に努めている。	身体拘束及び虐待について、年に3回の研修により意識を強化させている他、グレーゾーンはチェックリストにより自己判断を行っている。職員がとっさに出る「危なかよ」など日常会話で声をかけたり、疑問系で話しかけている。入居者の外出傾向等個別の状況を把握し、見守りや所在確認を行い、自由に歩てもらおう事としており、日中は玄関を開放している。管理者は職員の表情やスピード、イントネーション等に気を配り、自然体でケアをするように指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どこまでが虐待？。何気なく使っている言葉や、何気ない態度等気づかない物も多い。気づいたスタッフの声掛けや研修会で防止に繋がるよう心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について勉強会を行っている。実際に成年後見人制度を理解しているスタッフは少ないように思える為、勉強会を重ねる事が大事だと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必ず一つ一つ説明を行い理解を得た上で契約書を交わしている。それでも不明点や不安、疑問があれば随時対応させて頂いておられます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	健康面・食事・排泄・入浴・日常生活・その他に関して利用者様の状況やケアについて、毎月の様子をご家族様に発信している。又、意見箱を設置して率直な意見や感想を頂きケアの反映につながるよう努めております。	家族には毎月健康・食事・排泄・入浴・日常生活等担当職員により報告書を送付することで不安軽減に努めている。面会もままならない状況に、疑問点など家族からの電話での質問に、適切に対応している。家族の意見や要望等訪問時に聞き取りし、ケアサービスに反映している。	家族同士の交流は難しいが、誕生日や祭りにはお赤飯等を持参くださる等、家族の思いの深さが表われたホームである。今後も家族の意見や要望を収集し、ケアサービスに生かしていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のミーティングにて利用者様の状態について意見交換をおこない業務改善を行っている。又別日を設けて勉強会を行っている。休みの職員も参加してスタッフのレベルを上げ利用者に対応している	定例会議での業務改善や職員の気づきにはその都度話し合い、出来ることには即時対応し(例として職員の意見による日誌の変更など)、出来ないことにはあらためて検討することとし、善し悪しにかかわらず職員全員で共有している。事故発生時の連絡対応方法、役割分担等合議とし、職員個々が意識を高めて業務に当たっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話しやすい職場環境をつくり各々が向上心が持てる様、意見や要望を取り入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修を毎月行い知識を高めるようにしている。施設外の研修も最近ではオンライン研修が多くなっている為、その場にいなくてもいいという点で参加しやすい。知識が高まる様、取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームとは常に情報交換を行っている。認知症ケアの勉強会もオンラインなどで参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の表情や言動に注意し、不安や緊張等を緩和できるように努めている。会話をするときも視線を同じ高さにして声掛けするようにして信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも施設での様子を知っていただくために毎月の様子を項目分けして(健康・食事・入浴・排泄・日常生活・その他の項目)送付しております。又施設内外の行事も写真に撮りお元気な姿を見ていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の言動や行いの中から意向や思いを導き出し入居者様の不安の軽減と個々の生活環境の把握に努め、どのようなサービスが必要か検討を行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんだり干したり、トレーを拭いて頂いたり、お一人お一人ができることをお願いしている。又新聞たみなども役割を持ち、やっていただくことでやりがいを見出して頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも利用者様の施設での様子を電話やお手紙で細かくお知らせするようにしている。窓越しの面会が多くコミュニケーションが取りづらい状況にあったが時にはスタッフも会話に参加させていただくなどして情報交換をさせていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理容はお願いしております。保育園や小学校の子供たちとはコロナで実際会うことはかなわないが昔を振り返り話の中や写真の中で回想話を手繰り寄せたりしている。又利用者同士近所の方が多いため身近な話をされている	家族の支援による馴染みの美容室の継続や、命日の墓参、例年であれば保育園児や小学生との交流も行われていたが、これまでの写真等によりその様子を思い起こさせている。ホーム近くからの入居者も多く、入居者同士も昔からの知り合いという結びつきも強く、入居者及び職員の関係も馴染みの関係性にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者9名の内男性3名女性6名で生活されておられます。利用者様の会話もありトラブルもなく過ごされておられます。その日の状態で気分の変化がある方もおられますがスタッフが介入して適切な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院加療となられ他病院での療養を必要とされてる間はご家族様や病院と連絡をとり情報を収集しご家族の意向を踏まえつつ方向性を決めるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様お一人お一人との会話を大事にしております。日常の何気ない会話の中に新たな一面を垣間見たりしながら情報を得ている。知り得た情報をこれまでの個人の生活歴と照らし合わせたり本人の思いや意向を導き出しケアに生かされるよう努めている	入居者同士の会話の中から得た情報を生かしたり、耳の聞こえが悪い方、会話が少ない方等には職員から話しかけ返事を急がせないことで思いを引き出したり、表情等により推察し、日々のケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様から得た情報や、入居者様とおしの会話や、面会に来られた親戚の方からの情報等新たに知り得た内容をスタッフで共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の介護度やADL、IADL、自立度、年齢、性別、得意分野等これまでの暮らしの中から各自が役割を持った共同生活ができる様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々ご家族様やご利用者様と向き合い会話を密にしてその人らしい生活に向けてスタッフ全員で課題に取り組んだ計画を作成している	家族の面会時要望等を把握し、毎月の会議や3ヶ月毎のモニタリングにより評価及び達成度を見極めている。入居者の夜の声に対する担当者会議を開催し、原因の検討等精査する等個々のニーズを全員が共有し、プラン作成に反映させている。また、ターミナル期により書式を変更し、音楽でリラックス効果を図る等個別的なプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、体調変化や非言語的コミュニケーションにも目を向けわずかな変化にも対応できるよう情報の共有を職員間で行い実践に結び付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況やADLに合わせ対応を行っている。車いすや歩行器を使用したり、訪問診療時は入居者様が直接身体に関する疑問を投げかけたりされている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で安心して暮らせるように地区の区長・民生委員・町の福祉関係の方々との意見交換の場を持っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期と必要に応じ受診している。移動が困難な入居者様は訪問診療を行い身体的負担の軽減を図っている。受診の前と後はご家族様に報告をさせていただいている	本人・家族の了承のもと、全員が母体医療機関をかかりつけ医として訪問診療が行われており、受診前後には家族へ報告するなど状態が共有されている。専門医については、基本的に情報提供書を作成し家族の対応を依頼しているが、困難な場合はホームでも応じている。歯科は希望者のみ訪問により必要な治療や口腔ケアが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや変化があった場合、医療連携の為に、訪問看護師へ報告。診察が必要な時は協力病院や他科受信を行う。受診の結果はご家族様に報告。スタッフにも伝達ノートで知らせている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には基本情報やその他必要情報を書面と口頭にて行い、ご家族様とも定期的に情報の共有を行いご家族様の意向を伺い、病院・ご家族・当施設の連携を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状況やご家族の意見を踏まえた上で個々に対応を行い、担当医の意見を総合的に突き合わせ、不安を持たれない様な方向で対応している	重度化・終末期支援について、家族には入居時に簡単な説明を行い、そのような状態になって改めて医師の意見を含めホームの取組を説明し、意向の確認や方向性について話し合っている。介護度が3になったら特養施設への申し込みをされている方もおられる。終末期支援については、家族にとって繊細な内容でもあり、話し合いにおいては思いをくみ取りながら進めている。直近でも本人・家族の意向に沿い、主治医との連携を図りながら最終の支援が行われている。	ホームは全職員で心に寄り添うケアに努めており、今後も日頃の関わりを大切にしたいケアが継続されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には緊急マニュアルに従い管理者、ケアマネージャーや協力病院に連絡し、指示を受けている。消防救急隊による緊急時対応の指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルの作成、防災無線の設置、3日分の備蓄あり。スタッフ間はグループラインにて緊急対応し、区長や近隣在住者への協力依頼のネットワーク作成。年2回法令避難訓練と地震時の避難訓練を行う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは入居者様の前から行い説明をする。耳の遠い方もおられる為にゆっくり大きな声でしゃべる様に心かけている。入浴、トイレ、オムツ交換時は特にプライバシーに配慮するよう心かけている。	入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援について、職員間の共有、周知に努めている。呼称は苗字を基本としているが、同姓者には下の名前でも対応している。食事中に使用するエプロンについては、職員間で使用の可否を含め検討し、家族へも伝えている。個人情報の使用、目的は入居時に書面で説明している。身だしなみの支援では、自立でされる方やサポートが必要な方への支援、理美容も訪問や、家族と行きつけの店へ外出される方もおられる。	家族が面会を控えており、整髪や爪ののび、食べこぼしによる衣服の汚れなど引き続き細かな確認を行い、家族へも取り組み内容を伝えていくことで安心につながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険回避できることであれば入居者様が自由に過ごせるようにして、見守りを行っている。意思表示が困難な方は声のトーンや表情の確認をしながら推察し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9名の利用者様の個性に合わせた考え方や思いや動きがあるために、個人に合わせた支援をするように心かけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整容ができる方は見守りや声掛けにて行ってもらっている。洗面、化粧、服等を選び自由に過ごされている。できない方は声掛けや介助にて行うが服は選んでもらい好みの物を来ていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒にできる方は少ないのが現状である。無理をせずできる人には簡単な野菜の皮むきやお盆拭きなどを自主的に行っていただいている。	献立作成から食材購入、調理まで現在はホーム職員が行っており、入居者は調理の音や匂いも楽しむことが出来ている。食事形態や介助の度合いは個々に応じて検討している。やはり手作りの料理は好評で、カレーや肉料理なども希望が多いようである。行事食は職員も同じものを食べているが、普段は持参した弁当や希望で同じものを食べている。入居者は梅の収穫から保存食作り、お盆拭きなどできる事を一緒に取り組んでいる。	玄関先でのランチなど雰囲気を変えて食事を楽しむ支援も行われており、継続した取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	手作りで食事形態は個人にあわせ二度炊きやミキサー、小刻みや一口大等にしている。好き嫌いがある方は代替えを用意している。水分は10時15時19時と毎食後の6回。そのほかに入浴後にも水分提供。基本お茶で時折牛乳やジュース、ポカリスエット等を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は毎食後歯磨きの声掛けをしている。支援を要する方はその方に応じて一部介助や全介助で口腔ケア及び義歯洗浄を行っている。ポリドント洗浄、コップや歯ブラシの消毒も行い口腔内悪化予防に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日一人一人の排泄チェックを24時間行い自立度や排泄パターンを把握するとともに無理なく自然な排泄を心がけている。自分でできる人は見守り、尿意便意を感じない方は定期的にトイレ誘導して声掛けに応じてできるだけご自分で行って頂いている	現在、リハビリパンツにパットを併用される方が殆どであるが、布パンツで過ごされる方、オムツで過ごされる方2名には、昼夜で吸収力の異なるパットを検討し支援している。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、本体ごと1日おきに洗浄し、アルコール消毒を徹底するなど清潔に管理することで居室内に不快な臭気も残らず、気持ちよく使用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事(ゴボウなどの野菜を多めに使用)の提供や水分の提供。牛乳やミルミル、ヤクルトを飲んで頂いている。排便困難なご利用者様には下剤を処方して頂いて排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度に関係なく浴槽に浸かっていただき手足を伸ばして自宅で入浴されているのに近い形の提供をしているが自力で入れない方は補助具の利用も個々に合わせて使用している	午前を中心に週2回の入浴を支援している。拒否の方には家族の来訪予定を伝える等、声掛けを工夫し無理なく入ってもらえるようにしている。湯船に浸かることや十分温まることで夜間の安眠に繋がることから、シャワーチェアやキャリーバスボードなど福祉用具を活用している。季節湯(菖蒲・柚子)は継続して取り組んでおり、全入居者が入れる日まで準備している。	浴室に置かれたシャンプーや洗剤のボトルは安全面から置き場所の検討が必要と思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の位置や季節などを考慮しながら今までご本人が家で使用していた着衣。寝具を使い室温の調整を個々に合わせて行っている。寝具の清潔保持や心地よい眠りを提供するためにの天日干しやカバー類の洗濯も順番に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師が処方した処方箋を元に薬局発行の薬剤情報提供書を入居者それぞれのファイルに閉じスタッフ全員が薬の効用・副作用に等を確認出来るようにしている。服薬時は本人の目の前で提示。氏名や日付を読み上げ誤訳予防に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞たたみ、トレー拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ等一人一人に合った役割を見つけ残存能力を生かし発揮できる環境づくりに心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の高齢化、重度化に伴い外出や意欲低下も見られる様になっている。介護度の軽い方は苑庭への散歩や玄関先など外気浴も兼ねて気分転換されている。ご家族が家での行事や墓参り、食事等に連れていかれる方もおられる。	普段は敷地内の散歩や玄関先での外気浴など身近に出来る事を継続している。また、梅の木もあり花の開花を楽しみ、梅ちぎりの後は梅ジュース作りをはじめ入居者の出番が用意されている。コロナ禍にあるが法人の車輛を活用し、菜の花や桜見学に出かけており、コスモスは庭で見られるよう敷地内に苗を植え開花までを楽しむなど職員の工夫が聞かれた。家族の協力としては、墓参りや行きつけの美容室利用、本人や感染症の状況を見ながら正月帰省を予定されている方もおられる。	以前のような外出が少なくなっている分、ユーチューブやテレビ録画等を活用し、満開の花見を楽しむなど、職員のアイデアが聞かれた。継続した取組に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の高齢化や重度化に伴い、金銭を扱う方がほぼおられない環境になっている。介護度が軽い方の場合には買い物にスタッフと一緒に見守りの中購入されていた時もあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の電話利用の要求に対して、ご家族様の支障のない時間帯に時間を決めて電話をして頂いている。遠方在住の子供やお孫さんからかかってくるときがあり喜ばれている。手紙も頂かれると涙を流して繰り返し読み返しておられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を飾ったり苑庭の草木をみて季節の移り変わりを感じておられる、居室の整理整頓は勿論寝具も季節により心地よい入眠を促せるよう天日干しも9名様を交代で行っている。又ご本人が落ち着けるような空間づくりに努めている	リビング兼食堂の席は、入居者の身体状況や相性なども検討し決定している。入居時にテレビを見る事が楽しみであると家族より伝えられた方には、見やすい位置に座ってもらうなど配慮している。また、新聞を読むことを日課とされる方もおられる。行事や外出時の写真はホーム内に掲示されており、コロナ禍以前は家族も訪問時に楽しみにされていたが、現在は日中の様子を含め電話などで伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は自由に過ごしていただいている。テレビ視聴したり歌を歌ったり、新聞や雑誌を読まれたり苑庭に散歩に出たり外を眺めたり昼寝をしたりして過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が家にいる時に使用していただいていた馴染みの寝具や家具や家族写真等を置いていただき慣れ親しんだ物や思い出の品に囲まれて住み心地よく落ち着ける環境づくりに努めている。	馴染みや思い出の品に囲まれて過ごすことで安心して繋がる事を家族へ伝え、協力を依頼している。職員は入居時に物品の配置を検討したり、記名の有無や季節に応じた衣類・寝具が持ち込まれているか確認している。昨今は収納用に木製タンスより、プラスチックケースを準備されることが多いようである。どの部屋からも緑の樹木や庭先の草花などが眺められ洗面台も置かれており、個々のペースでゆっくり過ごすことができる。居室内は職員が掃除や換気に努め、業者によるエアコン掃除が行われた際は家族へも報告されている。	天候の良い日に実施する布団干しは「ホームの名物になっています！」と管理者は語っており、気持ちの良い安眠につながっていると思われる。変わらぬ支援に期待したい。また、面会を控えている家族に代わって、今後も居室内の整頓の様子など安心して繋がる報告を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLに合わせて居室のベッドの向きやベッド柵の位置を決め起居動作がスムーズに行えるように対応している。歩行器を使用される方は起床から立位保持に至るまで一連の動作を一人でできるようにしポータブルトイレを使用される方も動作に合わせた対応を行っている		